

令和7年 新年互礼会について

法人管理委員会

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は、当会の活動につきまして格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
さて新年互礼会を下記の通り開催いたしますので、ご繁忙のこととは存じますが万障お繰り合わせの上ご出席くださいますようご案内申し上げます。

また、本年に在籍 50 年に到達された先生方に永年在籍表彰を執り行う予定になっております。
該当される先生には別途招待状をお送りします。

日時	令和7年1月4日 土曜日	会場	シティプラザ大阪（大阪市中央区）	会費	今のところ未定
	17:30 受付		2階「SYUN-旬-」		★永年在籍表彰対象の先生は
	18:00 開宴予定				ご招待となります

★未定のところにつきましては、決まり次第ホームページ・いかなごう・フレッシュ 12 月号等でお知らせいたします。

重要

新入会オリエンテーションのご案内（正会員に入会）

本会では、新年互礼会にあわせて「新入会員オリエンテーション」を開催しております。
新入会員オリエンテーションは当会の活動・意義・運営などを各事業担当者からご案内する場として開催しております。
主に理事と同期入会の先生方との顔合わせとなり、ご入会後に感じた質問などあれば理事が直接回答いたします。
本年度の対象者は2024年1月1日以降に入会が認められた方となります。別途案内状をお送りしますのでご確認ください。
オリエンテーション終了後、新年互礼会（懇親会）にご招待いたします。
オリエンテーション・新年互礼会、どちらも参加費用は掛かりません。
服装の制限はありませんが、新年互礼会（懇親会）を考慮してお越し頂ければと存じます。

★ 新入会員（令和6年1月～）の方は必ずご参加ください ★

日時 令和7年1月4日（土）
15時30分～16時40分

会場 シティプラザ大阪 2階「AYA-彩-」
【会場案内】
シティプラザ大阪 住所：大阪市中央区本町橋2-3-1
<https://cityplaza.or.jp/wp2024/>

- オリエンテーション対象者には案内状をお送りいたします。
 - オリエンテーションは全新入会員の皆さんに原則参加をお願いしております。
必ず返信をお願いします。
- オリエンテーション終了後の新年互礼会（懇親会）は自由参加ですが、新入会員は会費無料ですし、先輩鍼灸師のお話を聞くことの出来るチャンスなので、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

CONTENTS

F1 令和7年 新年互礼会について
新入会オリエンテーションのご案内

F2 労働者を雇用されている先生方へ
台湾 全真易理針灸医学会
交流会のお知らせ

F3 第51回 大阪ろうあ者スポーツ大会

F4 第51回 大阪ろうあ者スポーツ大会
に参加して
一泊研修

F5 一泊研修

F6 公益社団法人大阪府鍼灸師会
主要行事予定表

F7 霊枢勉強会報告

F8 令和6年度
10月・11月研修事業のご案内

労働者を雇用されている先生方へ

法人管理委員会

大阪労働局より労働保険の加入周知の依頼がきております。



労働保険とは

労働者の保護及び雇用の安定を図ることを目的とした、国が運営する社会保険制度の1つです。労働保険は労災保険（労働者災害補償保険）と雇用保険を総称したものであり、正社員、パート、アルバイトなど雇用形態にかかわらず、労働者を1人でも雇っている事業場は成立手続が義務付けられています。



台湾 全真易理針灸医学会 交流会のお知らせ

昨年の「日本鍼灸師会 全国大会 in 近畿」に参加された台湾の全真易理針灸医学会メンバーが来日され熊本で講演されます。それに先立ち、大阪府鍼灸師会でもミニ講演会を実施いたしますので、ぜひご参加ください。

日時

令和6年11月7日（木）
15時～17時くらいまで

会場

大阪府鍼灸師会館 3階

締切

令和6年10月31日（木）

形式

現地開催 ※後日アーカイブ配信予定

参加費

大阪府鍼灸師会 会員：無料
一般の方：2,000円
学生：無料
アーカイブ視聴のみ：1,000円
（会員・一般共）

申込み

下記フォームよりお申し込みください。

<https://eowebmail.eonet.jp/#10>

タイムテーブル

- 15:00～16:30くらいまで
全真易理学を用いて鍼灸治療する為の超基本的な内容と、治療のツボを選択するルールについて。
- 16:30～17:00くらいまで
刀針の基本的な運用方法について
（適応疾患、運針方法の基礎、禁忌、等）



第51回 大阪ろうあ者スポーツ大会

スポーツ鍼灸プロジェクト委員会 副委員長
河北地域 片岡昌彦

8月18日（日）、堺市の大阪府立障がい者交流促進センター「ファインプラザ大阪」にて、大阪聴力障害者協会主催『第51回大阪ろうあ者スポーツ大会』にスポーツ鍼灸プロジェクト委員の甲斐先生と共にスポーツボランティアとして参加させていただきました。

以前より毎年、大阪聴力障害者協会様からは大阪府鍼灸師会に依頼をいただいております。私も準会員の頃から何度か参加させていただいているこの大会、今回もいつもながらににぎやかな大会でした。

玉入れ、ボッチャ、エールバトル（応援合戦）、フライングディスク、モルック、スプーンリレーが行われ、エールバトルはオリンピックネタで大いに盛り上がり、参加者の方々の元気や熱気はいつもに増してパワフルでした。

そういった雰囲気の中大会も、大阪聴力障害者協会の運営者の方や大会参加者の方々からは、我々に気づくと友達に会った時のように挨拶や、「よろしくおねがいします」と言ってくださいました。やりがいを感じるし、うれしい気分にもなってきます。サービス提供中もついつい雑談や身体の話が弾みます。時にはストレッチやパイオネックス貼付だけにとどまらず、日頃の健康相談やストレッチ指導にも及びました。

「顔の見える関係」と言いますが、お互い時間をかけて築いてきた関係はとても心地よいものだと実感します。また、そういった関係だからこそできる事も多くあるとわかります。

なお、聴覚障害者対象のろうあ者スポーツ大会においては、これらの話は会話ではなく、手話や筆談、リアクションなどの何となくの雰囲気で行います。こうしてみると、関係を築いていくのは会話だけではないこともよくわかります。

今大会は利用者さんが例年より多く、忙しくなる場面もありましたが、同席した甲斐先生の機転をきかせた働きで、スムーズにサービス提供が出来ました。利用者さんにも大変満足していただけた、今大会でもまた良い関係が築けたと思います。鍼灸師のマンパワーです。

これからも鍼灸師会の活動や鍼灸師一人一人の働きの積み重ねで、地域と鍼灸師でより良い関係が築けていけると感じました。



第51回 大阪ろうあ者スポーツ大会に参加して

スポーツ鍼灸プロジェクト委員
北地域 甲斐由紀

8月18日(日)に大阪府鍼灸師会、スポーツ鍼灸プロジェクト委員として片岡先生と大阪ろうあ者スポーツ大会に参加しました。開会から、我々鍼灸師のご紹介もいただき、私も手話で自分の名前を伝えることができました。

大会が始まり最初はどなたもお越しにならずでしたが、1名来られた後は「無料ですか?」と通訳の方と来られる方が続き、患部をお伺いしストレッチやパイオネックス0、6D テープを使用して、サービス提供をしました。

サービス後に、「ありがとう」と手話で言うので、我々は「頑張って」と手話で返答しました。みなさん、自宅でのセルフストレッチにとっても興味を持っていただき、一生懸命一緒にやってくださいました。それを見ると、我々も笑顔がこぼれます。皆さん、とてもお元気で、印象に残ったのは各チームのエール合戦です。

このときは皆さんエール合戦に夢中で我々も手が空いていたのでゆっくりと拝見できました。

時事ネタをふんだんに取り入れられて、オリンピックの柔道の阿部詩、一三選手のモノマネやフェンシングのモノマネなど、言葉が無くとも伝わりました。

何より皆さんとてもにこやかで、笑顔がとても素敵でした。

今回の参加者の皆様の意欲的にスポーツ疾患などについて考えておられると感じたので、次回のスポーツ鍼灸のストレッチ練習会があれば、また新しいストレッチやセルフストレッチなどご教授いただきたいと、課題もできました。

あと、デフリンピックについて、陸上、元金メダリストの三枝さんから2月の講演で聞いたこと・・・

『2021年に日本財団パラスポーツサポートセンターが行った調査結果では、国内のデフリンピックの認知度は16.3%です。パラリンピックの認知度(97.9%)と比べると低いのが現状です。2014年に同機関が調査したときは11.2%だったので、それと比べるとやや認知度は上がりました。いつか、パラのようにみんなに知ってほしい。』

そう願われていたことを思い出しました。

今まで参加したスポーツ鍼灸とはまた違った触れ合いができ、多方面で学びが多かったです。ありがとうございました。

一泊研修会

8月31日(土)・9月1日(日)、京都の聖護院御殿荘にて理事・監事・地域代表者一泊研修会研修会が行われました。実はこの時、前週から猛烈な勢力で近畿に近づいていた台風10号が迫っており、当初は開催も危ぶまれておりました。この台風、2018年に大阪を直撃し大災害を起こした台風と同様の勢力を持つということで不安の中での開催準備をしていましたが、当日台風は温帯低気圧となり、晴れ間が広がる猛暑の中での開催となりました。

今回は31日(土)に第4回理事会を開催し、いつもとは違った京都の風情を感じながらの温和な雰囲気での理事会となりました。その後、地域代表の先生方との食事会、交流会があり有意義な時間を過ごすことが出来ました。

翌、9月1日(日)には、NHKの鍼灸にまつわる番組ではおなじみの、明治国際医療大学鍼灸学部学部長である伊藤和憲先生をお招きして、『鍼灸師が担うべき養生と電子カルテの活用法～未来の鍼灸を創造する～』というテーマでご講演いただきました。

伊藤先生といえば、トリガーポイント治療や、慢性疼痛、痛みの機序などの研究の印象がありますが、現在は養生学へと研究内容に移しておられその経緯についても知ることができました。

病気など症状がある人が行う医療的なケアやコントロール法を「セルフケア」、健康な人が季節や伝統習慣や文化をとりいれる健康管理を「養生」であるとその違いを示され、心身だけでなく社会的にも満たされた状態、またそれを可能とする社会をwell-beingと呼び、健康維持を可能にするための「養生」でつながる地域コミュニティが必要であると話されました。

東洋医学の体調把握や治療法はこれまでの歴史から得られたビックデータそのものであるとも言えますが、それらのデータを一



一泊研修会

括して応用していくためには電子カルテの存在が大きな意味を果たすということでした。電子カルテに体調や生活習慣などの情報を入れAI を駆使した統計をとることで、個人個人に適したケアや医療の選択も可能となり、他の医療機関への情報共有や健康管理が可能となります。これからは個人だけでなく行政や企業が一丸となり地域共通理解として「養生」を浸透させること、社会全体で well-being への流れを育てて確立することが必要であると熱弁されました。伊藤先生自らが先陣を切り「養生」を多方面に渡って推進されている活動のお話は鍼灸師の未来が明るいものに感じました。

今年も一泊研修会が開催され、参加することができとても良かったと思います。地域代表者の先生で一度も参加されたことがない先生がいっぱいあればぜひ一度ご参加ください。そこには新しい発見と、楽しい出会いが待っています。来年お会い出来ることを楽しみにしています。

(研修委員長 清藤直人)



公益社団法人 大阪府鍼灸師会 主要行事予定表
(9月11日現在)



1. 令和6年10月予定

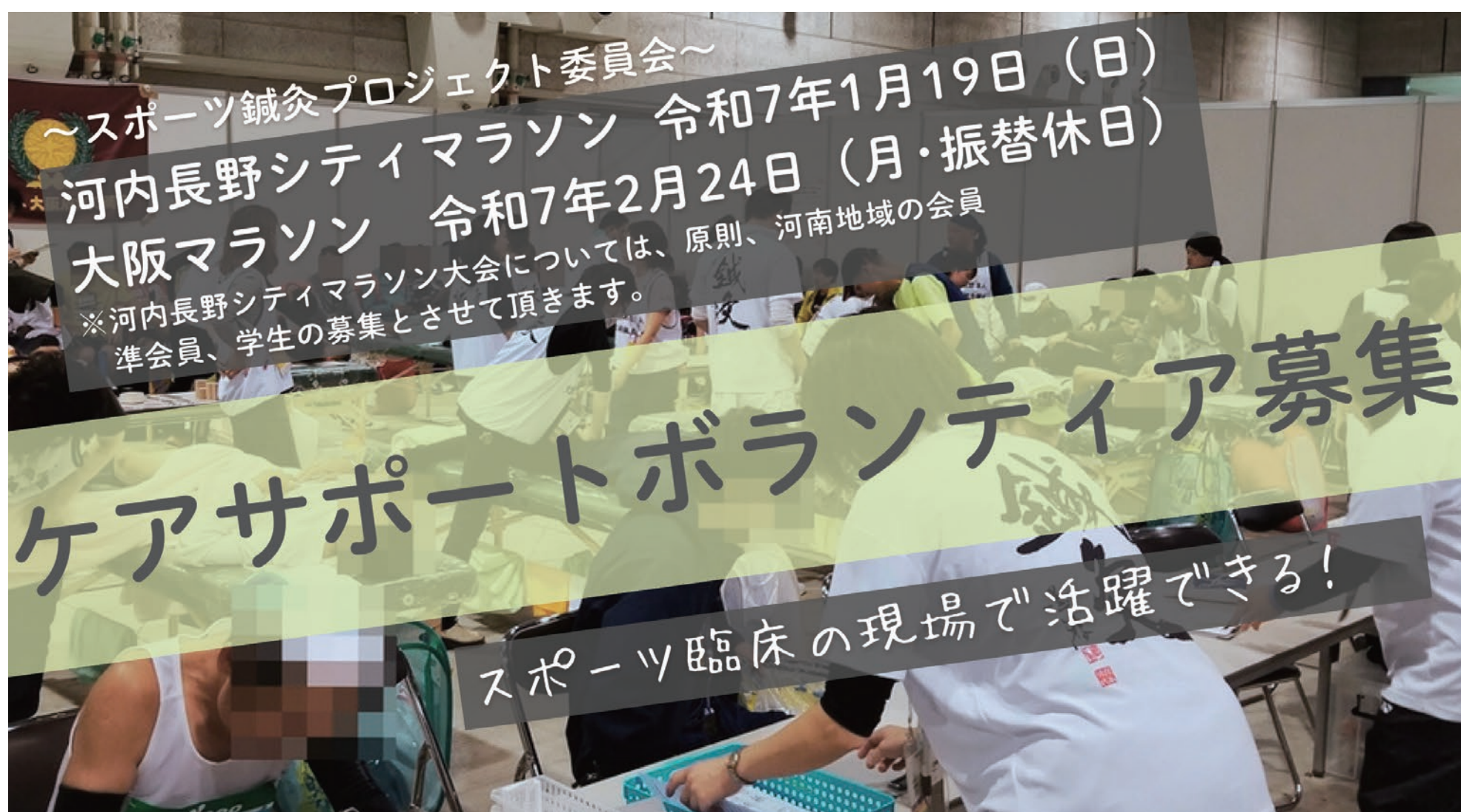
日	曜日	主要行事	場 所	開催時間
6	日	府民公開講座		
7	月	民生労災相談・審査会	会館2階事務所	15:00～
13	日	霊枢勉強会	会館3階+WEB配信	10:00～
13	日	民生労災新規取扱い講習会	会館4階	10:00～
26 ～ 27	土 ～ 日	日鍼会 全国大会in福岡	みらいホール & カンファレンス	

2. 令和6年11月予定

日	曜日	主要行事	場 所	開催時間
7	木	民生労災相談・審査会	会館2階事務所	15:00～
10	日	霊枢勉強会・学術研修会	会館3階+WEB配信	10:00～
14	木	第5回正副会長会議	会館2階	20:00～
17	日	第5回理事会	会館4階	10:00～
17	日	第2回地域代表者連絡会	会館4階	15:30～

3. 令和6年12月予定

日	曜日	主要行事	場 所	開催時間
5	木	会費引き落とし日		
7	土	民生労災相談・審査会	会館2階事務所	15:00～
8	日	霊枢勉強会	会館3階+WEB配信	10:00～
27	金	事務局仕事納め		



是非、ご参加ください！

参加を希望される会員・準会員・鍼灸学生には、ランナーの方々に安心・安全にサービスを提供できる様に下記日程の研修会に参加していただきます。



研修会場 大阪府鍼灸師会館（大阪市北区松ヶ枝町6-6）

日程 令和7年1月5日（日）

内容

9:00～10:00	大会当日の重要事項申し合わせ
10:00～11:00	問診
11:00～11:30	休憩（昼食）
11:30～13:30	英会話研修
13:30～16:30	実技研修

*実技研修の内容はストレッチ・テーピング・パイオネックスゼロ
セラミック電気温灸機の実践
*服装はジャージ等動きやすい格好（会館での着替えは可能）

条件

原則参加 ※鍼灸学生は参加必須

⚠インフルエンザ・新型コロナウイルス等、感染症の影響による延期中止の可能性があります。
⚠各マラソン大会ボランティアの参加人数をこちらから制限する場合があります。
上記⚠をご理解・ご了承の上お申し込みください。



参加申込
受付中

質問のある方は
daishinkai.fukyu@gmail.com
三宅までお願いします。

申し込みはこちらのフォームから→

会員用



準会員・学生用



◎募集締切-令和6年12月16日(月)まで

公益社団法人 大阪府鍼灸師会



霊枢勉強会報告

〈講師〉日本鍼灸研究会代表 篠原 孝市 先生

〈会 場〉大阪府鍼灸師会 会館3階

第40回 | 令和6年(2024年)7月14日(日)

〈出席者〉会員6名(会場) 一般12名(会場) 学生4名(会場)
*7月度は会場22名でした。

○『黄帝内經靈樞』 周痹(しゅうひ) 第二十七・第四章

○01 黄帝曰。 02 善。 03 此痛安生。 04 何因而有名。

01 黄帝(こうてい)曰(いわ)く、02 善(よ)し。 03 此(こ)の痛み、安(いず)くにか生(しょう)じ、04 何(なに)に因(よ)りて名(な)有る、と。

*03節の「安(いず)くにか」というのは、「どこに」と言う意味である。ここでは周痹(しゅうひ)がどこに出来るかを問うている。

*04節の「何に因(よ)りて名(な)有る」というのは、なぜ周痹(しゅうひ)と呼ばれるのかを問うている。

○05 岐伯対曰。06 風寒濕氣。 07 客于外分肉之間。 08 迫切而爲沫。 09 沫得寒則聚。10 聚則排分肉而分裂也。11 分裂則痛。12 痛則神歸之。13 神歸之則熱。14 熱則痛解。 15 痛解則厥。 16 厥則他痹發。 17 發則如是。

05 岐伯(きはく)對(こた)えて曰(いわ)く、06 風寒濕(ふう・かん・しつ)の氣(き)、07 外(そと)、分肉(ぶんにく)の間(かん)に客(やど)り、08 迫切(はくせつ)して沫(まつ)を爲(な)す。09 沫(まつ)、寒(かん)を得(う)れば則(すなわ)ち聚(あつ)まる。10 聚(あつ)まれば則(すなわ)ち分肉(ぶんにく)を排(は)して分裂(ぶんれつ)す。11 分裂すれば則(すなわ)ち痛む。12 痛(いた)まば則(すなわ)ち神(しん)、之(これ)に歸(き)す。13 神(しん)、之(これ)に歸(き)さば則(すなわ)ち熱(ねつ)す。14 熱(ねつ)すれば則(すなわ)ち痛解(つうかい)す。15 痛解(つうかい)すれば則(すなわ)ち厥(けつ)す。16 厥(けつ)すれば則(すなわ)ち他(た)の痹(ひ)發(はつ)す。17 發(はつ)すれば則(すなわ)ち是(かく)の如(ごと)し、と。

*【押韻】
「沫」(月韻)、「裂」(月韻)、「熱」(月韻)、「厥」(月韻)、「發」(月韻) 押韻。(当日配布資料21ページ、15～16行より)

(解説)
*06～07節では、風寒濕(ふう・かん・しつ)の氣(き)が、腠理(そうり)から肌肉(きにく)にとどまっているのだと言っている。分肉(ぶんにく)というのは肌肉(きにく)なのだが、ここではからだの浅い部分から肌肉(きにく)までの間に風寒濕(ふう・かん・しつ)がとどまっているのだと言う。

*08節「迫切(はくせつして)」というのは、風寒濕(ふう・かん・しつ)の氣(き)とそれと敵対する成分の津液(しんえき)のようなもの、と普通は解釈す

る。そして「沫(まつ)」というものを起こすのだと言う。歴代の注解を見ると「沫(まつ)」というのは「痰飲(たんいん)」のことだと言われている。

*09節では「沫(まつ)」が寒(かん)の氣の影響を受けると凝縮すると言っている。

*10節では「沫(まつ)」というものが凝縮した状態になると、それによって肌肉(きにく)が圧迫され裂けるのだと言う。

*11節は肌肉(きにく)が裂けると痛むのだ、と言っている。。

*12節の「歸(き)す」というのは集中するということである。ここでは痛むと精神が痛みに集中するのだと言っている。(ただし)ここで使った「精神」という言葉は「意識(いしき)」のことではない。「精神」を「意識」と訳するような例は(中国医学の)医学書の中には出て来ない。「精神」というのはまとめて言えば「正氣(せいき)」のことである。「正氣(せいき)」を陰と陽に分けると「精氣(せいき)」と「神氣(しんき)」になる。凝縮した「沫(まつ)」の部分に「精氣(せいき)」と「神氣(しんき)」が集まって来る。

*13節では、凝縮した「沫(まつ)」の部分に「正氣(せいき)」(「精氣」と「神氣」)が集まって来て、発熱するのだ、と言う。

*06節から11節までの間で起っていることは、痛みが出て熱を持つ、これだけである。その間に起る機序というものをこのような形でイメージしている。「正氣」が集まって来て「風寒濕」の氣と争って熱を起こす、そのように解釈するのが良いかと思う。

*14節では「痛解(つうかい)」つまり発熱すれば痛みが解消するのだと言っている。熱を発することが痛みを解消するプロセスだと見ているのだと思う。

*15節では、痛みは解消するが次は「厥(けつ)す」のだと言う。「厥(けつ)す」つまり「厥逆(けつぎやく)」が発生すると言う。氣のめぐりの悪いところが、また別に出て来る。

氣のめぐりが悪いというのは、風寒濕(ふう・かん・しつ)のうち特に「濕邪(しつじゃ)」によるものである。ふつう厥逆(けつぎやく)というのは、足が冷え、からだの下部から上部に向かって症状が起こるもので、頭が痛くなったり、胸が動悸したり、そのような状態になる。しかし15節の「厥逆(けつぎやく)」は、そうでは無い。この場合の「厥逆(けつぎやく)」は濕邪(しつじゃ)があって氣のめぐりが悪くて、そして冷える、このような状態が、からだの別の部分で発生するのだと言う。

*16節では、厥逆(けつぎやく)が発生すると、からだの他の部分に痛みが出て発熱するのだと言う。その部分の痛みが発熱によって解消すると、そこが厥逆し、また別の部分が痛み発熱するのだと言う。

*17節で「周痹(しゅうひ)」という病態を呈する、とはこのようなものである、と結んでいる。

*張志聰(ちようしそう)という人は、このような注解を入れている。「分肉、肌肉之腠理。沫者、風濕相搏、迫切而爲涎沫也。【分肉(ぶんにく)は肌肉(きにく)の腠理(そうり)、沫(まつ)は、風濕(ふう・しつ)相搏(あいう)ちて、迫切(はくせつして)涎沫(えんまつ)を爲(な)す也(なり)】」*緊張すると口の中のつばきなどが強い粘りを持つ。そういう状態のことを「沫(まつ)」というふうに考えれば良いのであろう。

*皮膚の肌理(きめ)のことを腠理(そうり)と言う。腠理(そうり)と皮毛(ひもう)は近い概念である。皮毛(ひもう)は脈とか肌肉(きにく)と一緒に使われる言葉である。腠理(そうり)は単独で使われる言葉であり、汗が出たりする時に使われる言葉である。「分肉(ぶんにく)は肌肉(きにく)の腠理(そうり)」というのは変な表現であるが、からだの中の浅い部分を分肉(ぶんにく)と解釈している。

*口の中で白くて「ねちゃねちゃ」したものが「痰(たん)」であるが、そんな状態のものが、からだの中をめぐっているというイメージである。「サラッ」としている液体成分である「津液(しんえき)」が、熱によって「ねちゃねちゃ」したものに変わっている。ここでは「沫(まつ)」と呼ばれているものが、そのような状態のものである。

『霊枢』の森を歩いてみませんか。毎月休まず第二日曜午前10時から12時まで、大阪府鍼灸師会館3階です。勉強会の案内につきましては本会ホームページをご確認下さい。次回は2024年 9月8日(日)、『霊枢』「口問 第二十八」です。

(霊枢のテキストは現在1冊の在庫があります。1冊1,600円です。受講申し込み時、または当日、受講受けにてお問い合わせください)

(霊枢勉強会世話人 東大阪地域 松本政己)

第41回 | 令和6年(2024年)8月11日(日)

〈出席者〉会員6名(会場) 一般12名(会場) 学生0名(会場)
*8月度は会場18名でした。

○八月特別講義 「藏象(ぞうしょう)について」

○はじめに (*一部を抜粋する)

05 江戸時代に『十四經發揮(じゅうしけいはつき)』や『鍼灸聚英(しんきゅうじゅえい)』『靈樞註證發微(れいすうちゅうしょうはつき)』などによって(經脈(けいみやく))の概念が導入された時、(經脈)の実在を支えたのは、(經脈)の病證(びょうしょう)ではなく、(經脈)の流注(るちゅう)であったと私は考える。(經脈)の流注とは、実は症状の出ている場所を表記するための手段であり、この(經脈)概念の導入によって、それまでの灸所や灸点も、その意味を変えたのである。(当日配布資料 2ページ 05項より)

(解説)
*經脈(けいみやく)が日本に入って来たのは、江戸時代の直前からである。それまで經脈(けいみやく)の概念というものは、日本ではまったく問題になっていなかった。「藏府(ぞうふ)」はずっと問題になっていた。その当時、經脈を選ぶための脈診などなかった。經脈を診るためには、經脈の病證(びょうしょう)か、經脈の流注(るちゅう)か、經脈の脈診しかなかった。經脈の病證(びょうしょう)も脈診も無いとすれば、もう流注しか無い。わたしは江戸時代の人が考えた經脈というのは、あくまでも流注であったように思う。しかし流注というも抽象的なものに過ぎない。氣がめぐっているのだと言われても、どうにもこうにもならないので、おそらく、その症状の表れる場所を特定するために、たとえば「手の陽明大腸經(ようめいだいちようけい)」のところに症状があらわれたというような形で診ていたのだらうと思う。

*もう一つ、經脈が江戸時代に流布した要因に、従来の藏府(ぞうふ)と經脈(けいみやく)が紐づいてるのだ、ということがあったように思う。藏府(ぞうふ)と新しく日本に入って来た「經脈(けいみやく)」は紐づいたもの、という考え方があり、それがある種の安心感を与えたのであろう。灸点(きゅうてん)や灸所(きゅうしょ)についても經脈の上に乗ることによって「藏府(ぞうふ)」まで一直線に影響を及ぼす、そんなことを考え得るので、とても良かったのではないかな。

06 それでは、江戸期において(藏府(ぞうふ))とは何であったか。一つは(藏府(ぞうふ))は臓器ではなく、胸腹部の診察、つまり腹診の土台となる概念に転化した。織豊(しよくほう)時代から江戸時代初期に活躍した鍼賢(しんけん)・御園意齋(みその いさい)の意齋流(いさいりゅう)がこれである。これは当事者がどのように考えていたかはさておき、(藏府)を臓器から(藏氣(ぞうき))に転じたものということができる。(当日配布資料 2ページ 06項より)

07 江戸中期の古方派(こほうは)は、この不可視の(藏府(ぞうふ))ならびに(經脈(けいみやく))を否定した。一方、蘭方医(らんぼうい)は、中国医学の(藏府(ぞうふ))を実体臓器と考え、それまで伝承されてきた(藏府)の図や論述の不正確性を和蘭醫書(オランダいしょ)の記述によって指摘した。(当日配布資料 2ページ 07項より)

(解説)
*古方派の人たちが藏府や經脈を否定した意味も深く考えてみないといけない。やはり、藏府も經脈も見えないというところがあるうか。

「からだの中にあるのだけれど、何か得体の知れないもので、それを使って、たとえば「肝(かん)は疏泄(そせつ)をつかさどる」などと言う。肝(かん)という臓器も見えないし、肝(かん)が一体何をつかさどっているかわからない!」

「藏府(ぞうふ)など理屈に過ぎない!」

「經脈(けいみやく)も目に見えないじゃないか!」

古方派の人たちはこのように言っていたかも知れない。

*古方派(こほうは)の発想というのは、基本的に触れることが出来たり、見える事が出来るものを中心になる。藏府(ぞうふ)のように見えないのに、その藏府にくっつける色々な機能、たとえば“肝(かん)は目をつかさどる”“肺(はい)は鼻をつかさどる”というような機能の説明をすることや、藏府が有する色々な働きについて見て来たようなことを言うのが許し難かったのだらうと思う。

*この古方派の感覚は、わたしも結構、良かったように思う。古方派の立場に立つかぎり、そのとおりだと思う。ただ古方派の人たちは鍼灸そのものにあまり関心が無かったというところがあり、藏府(ぞうふ)や經脈(けいみやく)というものを誤解していたところもあると思う。正しく相手を認識すると否定はできない。物事を否定する時に必要な第一の操作は、相手を誤解することである。相手を誤解して、自分の都合の良いような姿にしないと否定というのはなかなか出来ない。相手を理解すると否定はできない。古方派の藏府感や經穴(けいけつ)感があって、それに向かって否定して行くということだったと思う。

*見えないものというものはいっぱい有る。直接的に見えなくても間接的に見えるものはある。見えないから駄目だというのは何となく軽

薄な雰囲気がある。 見えているものが、すべてだと言えば、すっきりして良いなという感じはする。

*わたしは杉田玄白(すぎた げんぱく)たちが江戸の小塚原(こづかばら)で処罰を受けた人間を解体してオランダの解剖学書と合わせて歓喜したというのは、それはそれで結構なことだと思う。しかし中国医学の藏府(ぞうふ)を実体のものと考えていたからこそ「ああ見たことか」「どうなんだ」「まったく違っているじゃないか」となったのではないかと想像する。臓器のかたちという意味ではオランダ医学の方が正しいわけである。しかし中国医学の「藏府(ぞうふ)」というものが、もともと実体臓器だったかどうかということにさえ、想い至らなかったということはあると思う。

*多紀元堅(たき げんけん)か多紀元簡(たき げんかん)であったかが書いたものの中に、このような記述がある。彼がオランダ医学の解剖学の本とか知識とかを参照した後に「これは我々には役に立たない」と書いている。湯液(とうえき)も三陰三陽のもので診たりするので、臓器がどうであれ関係がないということであろう。鍼灸の場合も実体の臓器を対象にして「藏府(ぞうふ)」と「經脈(けいみやく)」を扱っているわけではないとすると『ターヘル・アナトミア』が出てきて、『解体新書』が出てきて「さあ、どうだ」と言われても、さほど衝撃を受けなかったと思う。

*実体の臓器に関心を持つ者は衝撃を受けたかも知れない。しかし江戸時代の臨床家は衝撃を受けなかったと思う。

『霊枢』の森を歩いてみませんか。毎月休まず第二日曜午前10時から12時まで、大阪府鍼灸師会館3階です。勉強会の案内につきましては本会ホームページをご確認下さい。次回は2024年 10月13日(日)、『霊枢』「口問 第二十八」(後半)です。

(霊枢のテキストは現在1冊の在庫があります。1冊1,600円です。受講申し込み時、または当日、受講受けにてお問い合わせください)

(霊枢勉強会世話人 東大阪地域 松本政己)

！ 10月・11月研修事業のご案内

令和6年度10月、11月度研修事業のお知らせです。

下記の要綱をご覧ください、会員の先生方におかれましては、万障繰り合わせの上、ご参加お待ちしております。詳細は、研修会案内をご参照下さい。

取得単位

(公社) 大阪府鍼灸師会生涯研修〈2単位〉
(公財) 東洋療法研修試験財団生涯研修講座〈2単位〉

会場 大阪府鍼灸師会館 3階

受講料 会 員:1,000円 (日鍼会・大鍼師会・柔整師会・全日本鍼灸学会の会員含む)

会員外:2,000円

学 生:無料

※会費種別は自己申告制です。運営から種別の確認があった場合、速やかに確認できる様にご準備下さい。

令和6年10月13日(日)

10:00～12:00
霊枢勉強会
(ハイブリッド開催)

演題 ・霊枢勉強会 **師傳 第二十九(ハイブリッド開催)**
講師 篠原 孝市 先生 日本鍼灸研究会 代表

令和6年11月10日(日)

10:00～12:00
霊枢勉強会
(ハイブリッド開催)

演題 ・霊枢勉強会 **決気 第三十(ハイブリッド開催)**
講師 篠原 孝市 先生 日本鍼灸研究会 代表

13:30～16:45
学術講習会
(ハイブリッド開催)

演題 ・学術講習会(ハイブリッド開催・アーカイブあり)
「男性不妊症の基礎知識」

講師 伊佐治 景悠 先生 (SR鍼灸グループ 総院長)

演題 ・学術講習会(ハイブリッド開催・アーカイブあり)
「鍼灸治療の直後と反復による効果の違い」
(実技供覧)

講師 伊佐治 景悠 先生 (SR鍼灸グループ 総院長)

【講演内容】現代男性の精液所見は急激に低下しており男性不妊で悩むカップルが増加している。しかし、造精機能を改善させる特効薬はなく病院での治療も難渋することが多いため、精液所見を改善させる新たな治療法が望まれている。不妊症に対する鍼灸はこれまで女性への施術が多く、男性機能への効果は不明であったため検討したところ、造精機能や副性器・勃起機能を改善させることが明らかとなった。臓器により作用の違いがあるため、単回または反復施術のどちらを選択するかなど本講演では詳説したい。

参加申込み方法

先着順(会館参加 30名 WEB参加 300名)

【参加申し込み方法】

先着順(会館参加 30名 WEB参加 300名)

QRコード・当会ホームページ、manaable(マナブル)から
参加申し込み後、受講料をお振り込みにてお支払い下さい。

研修3日前に最終の案内をお送りいたします。



<https://harikyu.manaable.com/>

お申込み締切

10月度 10月10日(水)

11月度 11月6日(水)

※お申込み開始は10月15日

事前にスムーズに対応していただけるよう、当日の参加方法と講義資料、ダウンロード方法をお知らせいたします。

■ 当日の参加方法

【会場参加】

- ①会場にて出席QRコードをスマートフォン等で読み取り
- ②いつも通り、会場で受講
- ③退出時も退席用QRコードを読み取り(受講完了確認)

【WEB参加】

- ①ログイン - manaable ←左記サイトに入りログイン
- ②「自分の研修」から申し込んだ研修会を選択
- ③「受講する」を選択(開始1時間前9時より有効となります)
※実際のZoom接続は30分前開始となりますので、9時30分以降に③を実行して下さい。
- ④Zoomにて受講

■ 講義資料ダウンロード方法

- ①会場参加・WEB参加ともにログイン - manaable ←左記サイトに入りログイン
- ②「自分の研修」から申し込んだ研修会を選択
- ③「受講する」を選択し、研修詳細画面の下部「講座概要」欄の講座資料に記載のPDFを選択し、ダウンロード(添付参照)
※今まで通り、講義資料のダウンロード開始は、前日の21時以降となりますこと、ご理解下さい。

※WEBセミナー会場へのセキュリティ強化と入室をスムーズに行うため、申し込み時の氏名と振り込み時の氏名およびZOOM入室時氏名を統一して本名にてご登録いただきますようお願い致します。
※受講時ビデオonをもって単位認定いたします
※取得単位は、講習会終了後に当会にて登録作業を行います
※単位認定は講習前後15分以上の遅刻・退室により付与致しかねます。また受講状況により付与できない場合がございますのでご了承ください
《WEBセミナー受講上の諸注意》 詳細は「WEB聴講利用手引書」をご覧ください
※撮影ならびに録画・録音はお断りいたします。
※当日使用するZOOMミーティングのソフトウェアをご自身が使用するデバイス(PC・タブレット・スマートフォン)に事前インストールをお願いいたします。また、最新版への更新をお済ませください。
※当日は参加者確認に時間を要するため、準備が出来た方は早めに受付を行って頂きますようご協力をお願いいたします。20分前から入室ができるよう準備いたします。
※最後に質疑応答の時間を設けますが、講義中もチャットにて随時質問をお受けいたしますので、主催者の指示に従って頂きますようお願い申し上げます。
※講習時はビデオon、マイクoff(ミュート)にご協力ください。

令和6年度 第4回(11月度) **学術講習会** 11/10 日曜日

会場 大阪府鍼灸師会館3階 または WEB配信(ZOOMミーティング) ハイブリッド開催 (会館受講+WEB受講)

午前の部 午前 10:00～12:00 (アーカイブあり)

「**霊枢勉強会(師傳)第二十九**」 講師 日本鍼灸研究会 代表 篠原 孝市 先生

午後の部 学術講習会

テーマ1 午後 1:30～3:00 (アーカイブあり)

「**男性不妊症の基礎知識**」 講師 伊佐治 景悠 先生 (SR鍼灸グループ 総院長)

テーマ2 午後 3:15～4:45 (アーカイブあり)

「**鍼灸治療の直後と反復による効果の違い**」(実技供覧) 講師 伊佐治 景悠 先生 (SR鍼灸グループ 総院長)

1日の聴講料(午前・午後を通して) 【事前申込みは必要です】

- 大阪府鍼灸師会会員:1,000円 (日本鍼灸師会会員、大阪府鍼灸マッサージ師会会員、大阪府東洋療法研修試験財団会員、全日本鍼灸学会会員、学校協会教員も同じ)
- 学生:無料(WEB参加限定) ■会員外一般:2,000円

■開催方法 ハイブリッド開催(会館受講+WEB受講)
■参加申込 事前申込制(先着順) 会館受講 30名 WEB受講 300名
■申込方法 下記QRコード、大鍼会研修申込みサイト(manaable: マナブル)にて**10月15日より申込み開始**致します。

会場(WEB配信会場) 大阪府鍼灸師会館3階 〒530-0037 大阪市北区松ヶ枝町4-6

単位について 東洋療法研修試験財団および大阪府鍼灸師会の研修単位(各2単位)が取得できます。

お問い合わせ先 公益社団法人大阪府鍼灸師会 MAIL: study@osaka-hari9.jp 〒530-0037 大阪市北区松ヶ枝町4-6 https://www.osaka-hari9.jp

ご不明な点やお問い合わせは『大阪府鍼灸師会』まで
連絡先: TEL 06-6351-4803 FAX 06-6351-4855

E-MAIL: study@osaka-hari9.jp (研修委員会 清藤)